

平成25年度以降も競争性のない随意契約とならざるを得ないもの【第4四半期】

(独立行政法人名：日本ｽﾎｰﾝ振興センター)

【記載要領】

1 本表は、「随意契約見直し計画」の対象となっている契約を対象とする。

2 本表は、平成24年度に契約した案件のうち、平成25年度以降も競争性のない随意契約とならざるを得ないものについて、当該契約ごとに記載したものである。

契約名称及び内容	契約担当者等の氏名並びその所属する部局の名称及び所在地	契約締結日	契約の相手方の商号又は名称及び住所	随意契約によることとした業務方法書又は会計規程等の根拠規程及び理由	予定価格	契約金額	落札率	再就職の役員の数	随意契約によらざるを得ない理由	随意契約によらざるを得ない場合の根拠区分	備考
2013年ｼｰｽﾞﾝﾘｰｸﾞ公式試合情報の取得	契約担当役 独立行政法人日本ｽﾎｰﾝ振興センター 理事長 河野一郎 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1	H25. 1. 28	株式会社ﾘｰｸﾞ ﾏｲﾌﾞ ﾚｰｼﾞｮﾝ 東京都文京区本郷3-10-15	会計規則第18条第4項「契約の性質又は目的が競争を許さない場合」	非公表	5,250,000	—	0	契約の目的物が特定の者でなければ納入することができないものであるとき (ﾘｰｸﾞ公式情報を取り扱っているのは一者のみ)	19	
国有財産の貸付契約 (JISS屋外テニスコート用地)	契約担当役 独立行政法人日本ｽﾎｰﾝ振興センター 理事長 河野一郎 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1	H25. 2. 6	国(関東財務局東京財務事務所)	会計規則第18条第4項「契約の性質又は目的が競争を許さない場合」	非公表	15,263,424	—	0	当該場所でなければ行政事務を行うことが不可能であることから場所が限定され、供給者が一に特定される賃貸借契約	5	
日本放送協会(NHK)放送受信契約	契約担当役 独立行政法人日本ｽﾎｰﾝ振興センター 理事長 河野一郎 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1	H25. 3. 8	日本放送協会 東京都渋谷区神南2-2-1	会計規則第18条第4項「契約の性質又は目的が競争を許さない場合」	非公表	5,293,482	—	0	法令の規定により契約の相手方が一に定められている場合 (NHK受信料)	1	
国立ｽﾎｰﾝ科学センター戸田艇庫の土地賃貸借	契約担当役 独立行政法人日本ｽﾎｰﾝ振興センター 理事長 河野一郎 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1	H25. 3. 16	公益社団法人日本ｽﾎｰﾝ協会 東京都渋谷区神南1-1-1	会計規則第18条第4項「契約の性質又は目的が競争を許さない場合」	非公表	3,611,984	—	0	当該場所でなければ行政事務を行うことが不可能であることから場所が限定され、供給者が一に特定される賃貸借契約	5	
文書管理システムのソフトウェア運用保守	契約担当役 独立行政法人日本ｽﾎｰﾝ振興センター 理事長 河野一郎 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1	H25. 3. 19	NECﾈｯｸｽﾘｰｼﾞｮﾝｽﾞ株式会社 東京都港区三田1-4-28	会計規則第18条第4項「契約の性質又は目的が競争を許さない場合」	非公表	1,228,500	—	0	法令の規定により契約の相手方が一に定められているもの (著作権)	1	
平成25年度共同通信社ニュースサービス「Clue3」の利用	契約担当役 独立行政法人日本ｽﾎｰﾝ振興センター 理事長 河野一郎 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1	H25. 3. 26	株式会社共同通信デジタル 東京都港区東新橋1-7-1	会計規則第18条第4項「契約の性質又は目的が競争を許さない場合」	非公表	1,764,000	—	0	条件を満たすすべての者(2者)と契約するため	19	
国立ｽﾎｰﾝ科学センターホートナ実験場保守点検	契約担当役 独立行政法人日本ｽﾎｰﾝ振興センター 理事長 河野一郎 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1	H25. 3. 26	株式会社西日本流体技研 長崎県佐世保市小佐々町黒石339-30	会計規則第18条第4項「契約の性質又は目的が競争を許さない場合」	非公表	8,400,000	—	0	法令の規定により契約の相手方が一に定められているもの (特許)	1	
国立ｽﾎｰﾝ科学センター循環ろ過システム保守点検及び整備交換業務	契約担当役 独立行政法人日本ｽﾎｰﾝ振興センター 理事長 河野一郎 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1	H25. 3. 26	株式会社みかづきﾌｰﾙｼｽﾃﾑ 高知県高知市中万々106-1	会計規則第18条第4項「契約の性質又は目的が競争を許さない場合」	非公表	54,223,550	—	0	法令の規定により契約の相手方が一に定められているもの (特許)	1	

【注】

1 本表は、「随意契約見直し計画」の対象となっている契約を対象としている。

2 本表は、平成24年度に締結した契約のうち、平成25年度以降も競争性のない随意契約とならざるを得ないものについて、当該契約ごとに記載している。

3 本表は、「公共調達適正化について」(平成18年8月25日付財計第2017号)記3の記載方法に準じて記載している。

4 「随意契約によらざるを得ない場合の根拠区分」欄は、以下の類型区分(1~19)の番号を記載している。

1: 法令の規定により契約の相手方が一に定められているもの

2: 条約等の国際的取決めににより、利益の相手方が一に定められるもの

3: 閣議決定による国家的プロジェクトにおいて、当該閣議決定により、その実施者が明示されているもの

- 4：地方公共団体との取決めにより、契約の相手方が一に定められているもの
- 5：当該場所でなければ行政事務を行うことが不可能であることから場所が限定され、供給者が一に特定される賃貸借契約（当該契約に付随する契約を含む。）
- 6：官報、法律案、予算書又は決算書の印刷
- 7：防衛装備品であって、かつ、日本企業が外国政府及び製造元である外国企業からライセンス生産を認められている場合における当該防衛装備品及び役務の調達等
- 8：電気、ガス若しくは水又は電話に係る役務について、供給又は提供を受けるもの（提供を行うことが可能な業者が一の場合に限る。）
- 9：郵便に関する料金（信書に係るものであって料金を後納するもの。）
- 10：再販売価格が維持されている場合及び供給元が一の場合における出版元等からの書籍の購入
- 11：美術館等における美術品及び工芸品等の購入
- 12：行政目的を達成するために不可欠な特定の情報について当該情報を提供することが可能なものから提供を受けるもの
- 13：緊急の必要により競争に付することができない場合
- 14：競争に付することが不利と認められる場合
- 15：秘密の保持が必要とされている場合
- 16：競争に付しても入札者がいないとき、又は再度の入札をしても落札者がいない場合
- 17：特例政令に相当する規定に該当する場合
- 18：国において定める随意契約の限度額を超える契約で、法人の定める限度額を下回る場合
- 19：その他、上記類型区分に分類できないもの